

企業情報システムを革新する *C Solution*TM*C Solution*TM and Its Objectives飯塚 まとひ
IIZUKA Matoi

世界的スケールの熾(し)烈な競争のなかで、いずれの企業もその体質と能力が厳しく問われています。独自の付加価値が見えない、意思決定が遅い、実行体制が伴わない、資本力が弱い、営業戦略が曖昧(あいまい)だ…など、問題を挙げると枚挙にいとまがありません。しかし、悠長な“改善”をやっている時間はなく、企業活動のスピードを上げ、損益分岐点を下げ、付加価値を増大する、生き残りをかけた一連の“プロセス革新”の俊敏で劇的な遂行が必要です。その起爆剤かつ推進エンジンとして、今ほど情報システムに期待が寄せられたことはありません。

予想をはるかに超えるインターネットの普及は、こうした役割の企業基幹の情報システムにも大きな影響を及ぼし始めています。インターネット、それは、世界に広がるビジネスチャンス(多様な顧客ニーズ)の海です。この海には、ブラウザという比較的標準化された操舵(だ)作法で乗り出すことができます。顧客ニーズと企業内システム、企業間システムを直結して円滑な情報フローと価値共有の連鎖機構を作り、企業活動の付加価値を増大させながら必要な資金調達、資金活用、資金回収の一連のサイクルを短縮する、その可能性を無限に秘めたこのインターネットの海を、すでに存在するこの海を、いかに企業基幹情報システムとして活用するかが問われています。

この特集でご紹介する“*C Solution*TM”は、こうした観点に立ち、第一フェーズで、基本アーキテクチャ“Webtopコンピューティング”を提唱し、支えるプラットフォーム機能、およびその上に構築される応用層のためのソフトウェア部品と実践的開発方法論を提示しています。そして、第二フェーズで分散オブジェクト技術を全面投入して規模と広がり自由度の拡大を実現します。今日、厳しい競争状況にある顧客の環境と条件をよく認識し、投資効果の明確なシステムを高速に確実に実現するサービスが求められています。当社は“*C Solution*TM”技術を駆使するシステムエンジニア集団を擁して、こうしたシステムインテグレーションサービスへの期待におこたえします。